

森林塾通信

第1回森林塾報告 テーマ「地ごしらえ、植林」

『二十一世紀最初の植林』

おなじみの豚汁を食べ終える頃、自己紹介が始まります。トップバッターの上原さん。「持ち山の管理をしてもらわなくてはならない娘を管理するために参加しました」(一同爆笑)

さてその娘さんの藤野さんは自己紹介のなかで郷里の山をよみがえらせたいと語ってくれました。当日の夜にいたメールから抜粋「母の世



この道半世紀以上、保科先生は今までに何本の木を植えたのだろう

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

代はもう山を動かす気はありません。山を見捨てた世代です。しかし、この世代のおかげで私は不自由なく育ち、今も好きなことを仕事にする自由をもっている。つまり、森を壊した責任は私の世代にあると自覚しています「こんな素敵な母娘ペアをはじめ今年もたくさんの方がAコースに来てくれました。一年目の方二十六名(今回参加は二十四名)、二年目の方は昨年度皆勤の池田さん、稲垣さん、芳賀さん、森さんはじめ十二名(同八名)、OBは二年連続皆勤賞の村谷さんはじめ十七名、(同七名)



苗木を振るって根の間に土を入れる

五十五名の塾生でAコースのスタートです。最長不倒は岡山県の逸見さん、おつと山形県の白壁さんや佐藤さんも負けてはいません。とくに今年「はるばる」の方が何人もみえます。

さてこれから一年間の長丁場になります。ご都合に合わせて、無理のない範囲で来ていただければと思っております。

三反部ほどの伊那市野底の財産区有林に八百本弱のスギ苗を植えました。六十、八十センチくらいに良く育った実



10時間以上かけて山形から白壁さんと、車で3分の長坂さん



生、三年生の伊那産苗です。両先生のご指導のもと、実に丁寧に植えてもらいました。きつと百パーセントに近い活着でしょう。

地位もよさそうですし、今後良く手入れされれば二十一世紀の初めには高さ三十メートル、直径一メートルの大木が並び立派な林になっていることでしょう。

今回の内容
第1回4月28日(土)
地ごしらえ、植林
8時30分 KOA パインパーク集合。伊那西部広域農道から松林の内側に入るのわかりにくかったのかもしれない。また島崎先生の小屋と勘違いした方も数名いて遅刻



大遅刻の中村さん、保科先生とマンツーマンで指導を受ける

者多数。二十分ほど送れてマイクロバスが出発しました。それでも間に合わなかった人はイントラ後藤と事務局坂野が四十分ほど待って拾ってきましたが中村さんだけは大幅遅刻で自力で現場に向かう羽目に。

ところで若葉マークのマイクロバスの乗り心地はいかがだったでしょうか

9時15分 伊那市野底の財産区有林着。保科先生、島崎先生のあいさつ、財産区の委員長、平澤さんのあいさつ、事務局からの日程説明。

唐鍬を積んだ坂野車が未着で、「保科さんに長めの漫談をやってもらおう」(島崎先生)と十八番の植栽の講義が保科先生により始まりました。根を団子状にしない、長すぎる



イントラ佐藤(右)に教えを乞う

2時 植栽再開
2時30分 スギの植栽が終了し、少し離れたヒノキ

12時40分 自己紹介。そのあと、ミズホ鋼機の部長さんに来ていただき、なたやのこの注文を取ってもらう

10時30分 植栽を開始
12時 途中、休憩を一度はさみました。本数で二割ほど残して昼食。具沢山の豚汁でお腹一杯になりました

根は切る、植え穴には腐植土など入れない等、単純そうに見える植栽にも多くのノウハウが詰まっていることを教えていただきました



無理しないでおね岡山の逸見さん

林に移動。ここは島崎先生が手入れを委託された私有林で広さ約三畝。まずは地ごしらえ。人海戦



風見さん逸見さん、丁寧に植えてくれました

4時 現場で解散。おつかれさまでした
参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、島田さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、中村さん、久部

3時30分 お施主さんからの差し入れのお茶とコーヒーで一服いれて本日のおりエンターション。お願い、保科先生、島崎先生のあいさつ

術で末木や枝条の片付け。その後、ヒノキの植栽。百本弱を植えました



100人分の豚汁。少し残ってしまった

さん、藤野さん、逸見さん、松永さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん夫妻、渡辺さん、池田さん、稲垣さん、岡田さん、塩田さん、鈴木さん、則竹さん、芳賀さん、小川さん、金子さん、河原さん、高草木さん、藤本さん、村谷さん、大野さん、講師/保科先生、島崎先生

スタツフ/石原、川島、後藤、佐藤、中村、野口、藤原、大野、椎原、平林、嶋田、坂野、坪木、真鍋、早川



なんだがミレーの絵みたいだ

総勢56名

次回以降の予定

第2回 5月12日(土)

測樹など

8時30分 島崎先生の山小屋に集合(伊那市横山鳩吹公園横です。今度は間違えないようにね)森林調査の一環です。筆記用具、電卓、雨量(雨天決行)なお当日直径巻尺の材料をお渡ししますので作ってみましょう。測樹に関しては島崎先生の「山造り承ります」での予習をお勧めします

第3回 5月26日(土)

樹木分類

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。検索図鑑によりキーを捜してみましよう。山歩きのできる格好で。雨具。あれば植物図鑑

第4回 6月16日(土)

伐木造材

六月は日程が少しイレギュラーになりますので間違えないように。16日と23日です

島崎先生の山小屋利用

先日もお話しましたように、今年も森林塾の開催前日、当日は島崎先生が山小屋を開放してくださいます。(ただし他の集まりなどがない場合に限り)特に遠方から車でお見えの方、事故などの心配もありますので、ご都合にあわせ、気兼ねなくご利用ください。事務局までご連絡をお願いします。使い方としては登山時の避難小屋の感覚で。火の用心、ごみは必ず持ち帰る(生ごみはコンポストに)。物を残していかないこと(特に冷蔵庫に食品等残さない)。使用後掃除。詳しくは神棚においてある使用規定をご覧ください。



島崎先生のワンポイントレッスン「なたの使い方」



また伐採する前にあらかじめ全刈りを済ませておくとしませり、さらには植栽後の下刈りの労力が軽減されます。

ワンポイントレッスン(地ごしらえ) 伐採後に残った末木、枝条を植栽の邪魔にならないように筋に並べたものを「しま」と言います。このしまについて何かを感じた方はいたでしょうか(とここでこのしまとはどんな漢字を書くのでしょうか。鳥か縞か、今度先生に聞いてみましょう)

スギを植えた財産区有林は、事前にイントラ佐藤をはじめとするスタツフが地ごしえを済ませていましたが大方の場合は植林前の必須の作業となります。

林では普通等高線に沿ってしまを作ります。伐採後の、雨水や風雪による表土の流失を避けるためです。五、十年後には腐植となり植栽木の養分となります。

しまの大きさ、長さ、隣との間隔などいろいろ加減はいけません。あとの植栽、さらには下刈りを見据えてのものでなくてはならないからです。ヘクター三本の植栽の場合、隣の苗木との間隔が一・八メートルです。例えは三・六メートルでなければなりません。(いずれも水平距離)大きさは長さに関係しても、大きすぎると腐植になり、長すぎると下刈りの時に次のしまに移れませぬ。しまを作ろうとする場所に高さ八十センチほどの杭を打ち、それに丸めた末木、枝条を押し付けるとい手順をおこないます。大きくなりすぎたら、ときにチェーンソーで刻むなどの整形も必要となります。

また伐採する前にあらかじめ全刈りを済ませておくとしませり、さらには植栽後の下刈りの労力が軽減されます。

また伐採する前にあらかじめ全刈りを済ませておくとしませり、さらには植栽後の下刈りの労力が軽減されます。

また伐採する前にあらかじめ全刈りを済ませておくとしませり、さらには植栽後の下刈りの労力が軽減されます。

また伐採する前にあらかじめ全刈りを済ませておくとしませり、さらには植栽後の下刈りの労力が軽減されます。

リレー通信



「晴工雨毒」 佐藤 誠



三十才代半ばに差し掛かった、ある日曜日。アウトドアの遊びが流行り始めた頃でした。

「そうか！キャンプか。面白いかもしれないな。」小学生の頃行った林間学校のキャンプファイヤを思い出していました。

しかし、キャンプに行ったら、食って寝るだけじゃ面白くない。何か楽しいことは無いかな？

どこで仕入れてきたのか「フライフィッシング」(西洋

毛釣り)なるものの存在を知りました。

当時、フライフィッシング(FF)を「悪魔の遊び」と呼び、とり憑かれてしまったことを(隠れて)自慢する人たちがいました。私も仲間に入っていたきました。

FFの泥沼にハマりはじめた平成元年、神奈川県平塚市に住んでいた私が、新潟県長岡市へ転動することになりました。天使が微笑んだので、サラリーマンっていいですね。

毎週末(サラリーマンですから)、アッチの川、コッチの川。毎週通っても釣れない時は無い、というシーズンもありました。

そんないい事ばかり続く訳無いですよ。釣れない日の方が多くなってきました。「あああ」「フウ」「ヨッコラしょ」と、腰を伸ばして「アイテテテ」と、「アイテテテ」

込んできました。

「？、あの木、このあいだは紅かったと思うんだけど？」

初めて「四季」を知った時かもしれませぬ。こんな経験が、釣れない魚の数に反比例して増えていきました。釣りに行ったのに竿を出さない

日までありません。長岡に移ってあまり日の経たない頃でした。「地元の人たちが集まって、打ち捨てられていた里山を復活させようとしている」という新聞記事が目が止まりました。「雪国植物園」との出会いでした。

「なんか、面白そうだな。花の名前なんか教えてくれるかな」などととても惹きつけられる思いを感じたものの、FFにのめり込んでいた時期でしたので、脳味噌の奥に仕舞い込んでしまいました。

数年後、また、釣れないシーズンが始まるうとしていたある春の日、「雪国植物園、ボランティア募集」という新聞のチラシが舞い込みました。脳味噌の奥の引出しが開きました。迷うことなく応募しました。「森林塾」に応募した時もよく似ています。

雪国植物園のHPです。
<http://www.niks.or.jp/syokubut/>

「雪国植物園」は翌年に開園を控えているものの、作業の中心だった地元の人たちは老齢化が進み、人手が足りなくなっていた時でした。

真夏の広場での雑草取りや2000本を超えるユキツバキの苗の植栽、園内のほとんどが藪になっていきますので、ヒコヤ枯れ木の伐採。植えるよりもとにかく切る事が先決

です。なかなかしんどい作業ばかりでしたが、作業の合間に現場で食べた暖かなスイカの味は忘れられません。不思議なことに、枯れ木などを整理し、地表に光があたるようになる、山野草が咲き始めるのです。自然を復活させるということはこういうことなのか。人間が壊した自然を取り戻すために、人間ができることは、私たちが作り直すのではなく、自然の持つ治療力の手伝いをするだけではないんだ。

もちろんそれだけでは足りない場合もあります。むしろ、今はそのほうが多くなっているはず。

森林塾へは技術や理論を学びに来ました。一年で、どれほどのものが身に付くかわかりませんが、自然に関わろう、手を加えようとした場合、林業の技術は知らなければならぬ技術だということに気づきました。

森林塾に来られている方の中には、木工が趣味とかプロの方をお見受けします。私も木を切ったり、削ったり、組み立てたりするのが好きです。リタイアしたら木工をして遊ぼうと思っ

ています。「自分の植えた木で家具が作れたらいいな」なんて思いますが、でも植えた木が使えるようになるには、三十年

リレー通信



鹿児島 鳥取
愛知 伊那通い
溜 幸

四十年と掛かる訳ですよ。どうやっても八十歳ぐらいまでしか生きられないと考えたから、早くスタートするしかないという結論になります。

山からざり出した木で小屋を作り、昼は木工、夜はFFで釣った岩魚で酒を飲む。「晴工雨毒」と呼んでいいです。私って不純でしょう(？)

こんな日が早く来ることを夢に見つつ、今日スタートしました。

今日5月6日は、私の五十歳の誕生日です。

士・・・なんて想像しないでください。鹿児島弁で女性のことは「おこじょ」というのです。ちなみに「よかおこじょ」で「いいおんな」ですよ。はい、鹿児島弁OKですね。(私の友人は「おこじょ」と言ってくれましたが、私はイタチ科の動物ではありませぬ。一応、人の子です)

ちなみに、經由地の鳥取は砂丘があつて二十世紀ナシのおいしいところ。鳥取と鳥根の位置関係の間違えないでください。ゲゲゲの鬼太郎ロードがあるのは鳥取県。出雲大社は鳥根県にあるんですよ。これで、あなたも山陰の人。

すみません。いささか、緊張しております。

愛知に来たのは就職のため。涙で鳥取に別れを告げ、愛車「レックス」とともに高速道路をブイブイと走り、なんとか到着。高速を下りてみたら、片道三車線道路、しかも頭上に高架付。生粋の田舎娘はどつと疲れたのを記憶しております。愛車もこきつがい過ぎたのか、しばらくして動かなくなりました。今は、復活して元気に活躍中ですが。

なにゆえ、愛知？そんなに九州に帰りたくなかったのか？いえいえ、たまたま一番最初に結果が出て、中途採用で働いてくれないか？と言わ

れたのが今の勤務先だったのです。

「東海地方、未知の土地だ。どつしよ」なんて不安も無くはなかったのですが、そんなことを言える身ではございません。私は就職浪人中の身。思い起こせばちょうど二年前のG・W。働く場も決まることなく、のんきに鳥取砂丘のソフトクリーム屋さんでアルバイトしていたのでした。「働かなくて」で就職決定。そういえば、大学の先生に就職決まりそうです。と報告にいったら、言われたっけ。「溜さん。たてくう虫もすぎずきなんですよ。溜さんみたいな人がいいと思う会社もあったのでしょ」「ふーん。そういうもんか。これって、なんかトゲもあるけど、きつと励ましの言葉よね。とにもかくにも働かなくちゃ」「そんな会話から早二年になるうとしていきます。そんな訳で、愛知におります。



こちらで、生活し始めて一

番許せなかったのは、一年間の内に自転車も二度も盗まれたことでしょうか。一台目を盗まれ、仕方がないと五年ぶりに新しいびかびかのチャリを手に入れて喜んでいたら矢先に二台目も姿を消しました。

今度は、ちゃんと施錠していたのに。今も我が家にはびかびかの鍵だけが転がっておりま。周囲の人々に言わせる「自転車は持っていかれないように、建物かなにかにつないでおかないと盗られるよ」「自転車と傘は皆の共有のものと思ってる人も多いからなあ」だそう。何！まったく。けしからん」と叫んでも戻ってこない私の自転車。

仕事は、まだペーパーなので分からないことも多いのですが、いわゆる地図・測量関係の仕事です。航空写真を撮ったり、航空写真から地図をおこしたりする会社です。といったイメージがわくでしょう。一昔前なら、地図

に半ば足をつっこみかけている状態です。日々、パソコンの画面と格闘中。

ペーパーな社会人で日常の大半を仕事に占め、ささやかな休日感謝しつつ(本当かなあ)暮らしております。でも、職に就けたおかげで、なんと一人暮らししていきけるし、森林塾に通うゆとりもできたし。なかなか、いい金と時間の使い方だ。と思ってるのは本人だけかなあ。

一枚一枚を、職人技で人間の手で書いていたのでしょうが、今はほとんどコンピュータ処理の時代になっちゃいました。そして、地図も紙から電子地図へ。いわゆる、今流行(?)のITの世界

ノルマは、十日間から二週間の間に七ヘクタールから九ヘクタールくらいのスギ・ヒノキの人工林。食費、諸経費こみで配給されるお金は決まっています、最後まで日当割りして給料として頂くしくみ。往復の交通費の足しになるくらいもらえ

も、職に就けたおかげで、なんと一人暮らししていきけるし、森林塾に通うゆとりもできたし。なかなか、いい金と時間の使い方だ。と思ってるのは本人だけかなあ。

草刈り機を使うのでしょが、一小隊のメンバー約二十人前後、しかも学生ほとんど。そんな、ど素人に草刈り機を持たせる訳にはいかない。頼みの若さで草刈り鎌の配給。終わりの見えない、スギ林の斜面に一人一問ずつガツガツと刈りまくる。

な。山では食べない。一応、旧林学科といわれる学部の出ということもあって、この業界の取り巻く状況をまったく知らないという訳ではなかったのですが、どこもそうなのだなあ。

でも、とにかくにも山仕事を教わる場所と機会があることを喜びつつの伊那通いで。どうぞ、よろしくお願ひします。

あれから、結構、月日は経ちました。たまたま、インターネットが何かで森林塾を知って、参加して、こうやってリレー通信を書かせて頂いている次第です。



コラム

い一年を過ごしましよ、さまざまな森への想いをつむぎながら。 **おわりに** KOA森林塾も今年で八年目になります。始めてから二、三年の間は塾生も少なく、ときには参加者が数人という事も珍しくなく今の賑わいが嘘のようです。 この間大きな事故や怪我もなくやってこられました。事務局としては今年もまず、安全第一。この点に関しては細心の注意を払って運営していきたいと思っております。皆さんのご協力お願いします。ご意見とかご要望とどしお寄せください。 また今年から鳥崎先生が岐阜県立森林文化アカデミーの教授になられたこともあり、お忙しい合間に来ていただくことになり、ときには都合で来れない場合も生じるかと思ひます。保科先生、イントラの方々、今まで以上にお世話になります。今年もよろしくお願ひいたします。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。 TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp 携帯:0902-53-26375 (開催日) H.P.http://www.koanet.co.jp

